創立 55 周年記念社員旅行ドイツ

右城　猛

1. まえがき

数年前から社員に対して、「創立 55 周年には全員でヨーロッパへ行こう」と夢を語り、高い経営目標を掲げてきた。社員が一丸となって努力してくれたお陰で業績を順調に伸ばし、平成 29 年度には念願であった 20 億円の受注目標を突破することができた。

行きたい旅行先を社員に尋ねたところ、ほぼ同数でイタリア、フランス、ドイツがあがってきた。社員の希望を叶えられるよう第 1 班は 5 月 7 日の週にイタリア、第 2 班は 5 月 14 日の週にフランス、第 3 班は 5 月 21 日の週にドイツへそれぞれ 4 泊 6 日の日程で行くことにした。

ドイツ位置図

ドイツの観光地

私はスケジュールの関係でドイツへ行くことにした。メンバーは社員 31 名と私の家内、それに JTB の眞田直也高知支店長、ツァーコンダクターの安達晃子さんの合計 34 名である。社員のうち 10 名は今年の 4 月に入社した新入社員である。

2. 旅行の行程

5 月 21 日 (月) 晴れ	◆羽田からベルリンへ 高知 10:15→羽田 11:35(ANA564) 松山 9:45→羽田 11:10(ANA584) 徳島 10:50→羽田 12:05(ANA282) 羽田 14:05→フランクフルト 18:45(LH717)　所要時間 11:40 、時差 7 時間 フランクフルト 20:15→ベルリン 21:25(LH044) テーゲル空港から専用バスでホテルへ HOTEL BERLIN 泊
5 月 22 日 (火) 晴れ	◆ベルリン観光 ホテル 8:15 出発 ドイツ連邦議会議事堂、ブランデンブルク門 ベルリン・オリンピアシュタディオン ベルリン郊外のアウス自動車専用道路 グリーニッケ橋 ◆ポツダム観光 ポツダム旧市街ブランデンブルク通り散策 レストラン Ballhause で昼食 サンスーシ宮殿(世界遺産) ツェツィーリエンホーフ宮殿(世界遺産) (ベルリン高級デパート KaDeWe) レストラン・マキシミリアンス HOTEL BERLIN 泊
5 月 23 日 (水) 晴れ	◆ベルリン市内観光 ホテル 7:30 出発 ポツダム広場　SONY センター チェックポイント・チャーリー、ベルリンの壁イース

ミュンヘンは曇り	トサイドギャラリー ベルリン大聖堂 ベルガモン博物館 12:45　レストラン「Neumann`s」で昼食 ◆ミュンヘンへ移動 ベルリンテーゲル空港　16:00→ミュンヘン 17:10 (LH2041) ホーフブロイハウス(Hofbräuhaus München)で食事 HOTEL REGENT 泊
5 月 24 日 (木) 雨、曇り	◆シュタインガーデン、シュヴァンガウ ホテル 7:45 出発 専用バスでヴィース教会へ シンデレラ城のモデル「ノイシュバンシュタイン城」 昼食 専用バスでミュンヘン市内へ ◆ミュンヘン市内 BMW 博物館、BMW ヴェルト(ショールーム) マリエン広場、ミュンヘン新市庁舎　85m の塔 ビアガーデンのあるヴィクトアーリエンマーケット、聖母教会 ミュンヘン新市庁舎の地下にあるレストラン「ラーツケラーRatskeller」で食事 HOTEL REGENT 泊
5 月 25 日 (金) 晴れ	◆ミュンヘン市内 ホテル 8:30 出発 バイエルンミュンヘンのホームスタジアム「アリアンツ・アリーナ」 ヴェルテルスバッハ王家の宮殿「レジデンツ」 空港で昼食 ◆日本へ帰国 ミュンヘン 16:15 発→
5 月 26 日 (土)	→羽田 10:50 (LH714) 羽田 12:15→松山 13:45(ANA589) 羽田 13:30→高知 14:55(ANA565) 羽田 13:35→徳島 14:50(ANA283)

3.【1 日目】 高知からベルリンへ

羽田国際空港より LH717 便でフランクフルトへ向かう

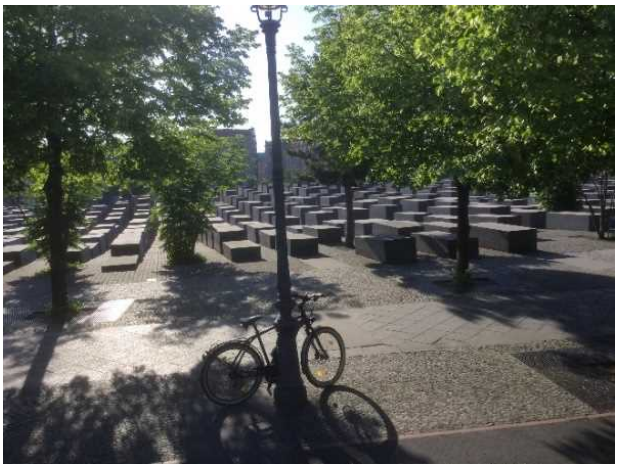
座席のモニター画面。有料であるが機内でも Wi-Fi が使用できる。1 時間プラン(9.0€)を利用したが、フランクフルト到着まで使用できるフライトプラン(17€)を利用すべきであった。

4.【2 日目】ベルリン・ポツダム観光

ホテル周辺

観光に出発する前に、ホテル「ベルリン」の周辺を散策。中平君は早速、ランニングのトレーニングをしていた。

ホテル近くのスーパーマーケット「ネット」で髭剃りを買う。

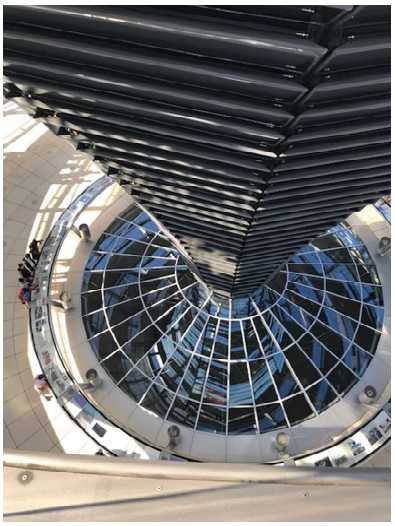


ホテルからドイツ連邦議会議事堂へ向かう途中で見かけた「ホロコースト記念碑」。戦争で虐殺されたユダヤ人のための記念碑である。

ドイツ連邦議会議事堂

1933 年のヒトラー内閣誕生に反対する共産党員の放火で炎上したが、1990 年の東西統一後 8 年かけて改築された。屋上にはガラス張りのドームが設けられている。

議事堂に入るには手荷物検査所を通過しなければならない。検査所の前に文字が刻まれた鉄板のモニュメントがあった。ヒトラーに虐殺された偉人の名前が刻まれているのだろうか。



屋上ドームの下は議事堂になっている。ドームのガラスは太陽の動きにあわせて常に角度を変え、直射日光を議場に入れず、かつ議場を常に明るい光で満たすよう設計されている。

ドーム内のスロープの最上部。JTB の眞田支店長と阿部君。

議事堂の屋上からベルリンの市内を展望することができる。

メルケル首相が住んでいる総統官邸。現地ガイドによれば、メルケル首相は国民からあまり支持を受けていない、他に人材かいないため首相を続けているとのこと。

ドイツの国旗は、上から黒、赤、金色の三分割旗。19 世紀始めナポレオン軍との戦いに参戦した学生義勇軍の軍服の色を取り入れたもので、黒いマント、赤い肩章、金ボタンに由来し、自由と統一の象徴とされている。また同時に、黒・赤・黄の 3 色がそれぞれ勤勉、情熱、名誉を表すとも言われている。

議事堂から徒歩でブランデンブルク門へ移動。途中に、ベルリンの壁が建てられていた位置を示すブロックが路面に埋め込まれていた。

ベルリンの壁の跡は、ベルリン市内のいたるところで見ることができた。

ブランデンブルク門

アテネ神殿の門を手本にして作られたプロイセン大国の凱旋門。門の上の勝利の女神と 4 頭立ての馬車カドリガは、1806 年にプロセインを破ったナポレオンがパリへ持って行ってしまっていたが、1814 年にベルリンに戻った。

ベルリン・オリンピアシュタディオン

ドイツでは路上駐車が当たり前。道路脇に隙間がなく車が駐車されている。

1936 年に第 11 回オリンピックが開催されたインスタジアム「ベルリン・オリンピアシュタディオン」。競泳女子 200m 平泳ぎで、「前畑ガンバレ」で有名になった前畑秀子が金メダルをとった。

オリンピックスタジアムの前の広場のマンホール蓋。ベルリン・オリンピアシュタディオン、ドイツ連邦議会議事堂、ブランデンブルク門、ベルリンテレビ塔、戦勝記念塔などベルリンの名勝が刻まれていた。

アヴス自動車専用道路

1913～1921 に造られたベルリン郊外にあるヨーロッパ最古の自動車専用道路であるアヴス自動車専用道路。

ドイツ自動車産業の競争力向上を目的として造られたサーキット場。観客席が今も残されている。

1937 年の第 6 回アヴス・レンネンにおいてメルセデス・ベンツ・W25 に乗ったヘルマン・ラングが、平均 260.7km/h の速度で優勝している。

一部は有料道路としても開放されてベルリン・ポツダム間の自動車移動時間の短縮に寄与し、これがのちのアウトバーン建設のきっかけとなった。

グリーニッケ橋

グリーニッケ橋は、ベルリンとポツダムの境界にあるハーフェル川に架かる、橋長 128m、幅員 22m、中央径間 74m の 3 径間連続トラス橋。

冷戦時代は、アメリカが支配する西ベルリンとソビエト連邦が支配する東ドイツとを繋ぐ立地から、米ソ間のスパイ交換の場として使われた事で知られる。

。

グリーニッケ橋を渡るとポツダムの町に入る。

ブランデンブルク通

昼食の前にポツダム旧市街のショッピング街ブランデンブルク通りを散策。

ブランデンブルク通りのレストラン Ballhause で昼食。

ここのランチは美味しかった。

サンスーシ宮殿(世界文化遺産)

サンスーシ宮殿は、プロイセン王国時代の 1745 年から 1747 年にかけて、フリードリヒ 2 世の「夏の離宮」として建てられた。

宮殿の外装は比較的簡素だが、室内はいわゆる「フリードリヒ式ロココ」の様式で、壁から天井まで豪華に飾られている。

ツェツィーリエンホーフ宮殿(世界文化遺産)

1917 年に当時皇太子であったヴィルヘルム・フォン・プロイセンのために建設された宮殿。現在はホテルとして利用されている。

1945 年 7 月 17 日から 8 月 2 日、ソ連の占領地となったポツダムに、アメリカ合衆国、イギリス、ソビエト連邦の 3 カ国の首脳が集まって第二次世界大戦の戦後処理を話し合った「ポツダム会談」の場所である。

ポツダム会談が行われた部屋。机の上には、今も三カ国の国旗が立てられている。

会議室の脇にはポツダム会談の様子が写された写真が展示されていた。

左からスターリン(ソビエト連邦首相)、トルーマン(アメリカ合衆国大統領)、チャーチル(イギリス首相)の三巨頭の写真。

ポツダムに集まった 3 ヶ国首脳が、1945 年 7 月 25 日に並んで椅子に座って会談をした場所。

私が手に持っているのがその時の写真。左からチャーチル英首相、トルーマン米大統領、スターリンソ連首相。

レストラン・マキシミリアンス

夕食は、ベルリン中心部にあるレストラン「マキシミリアンス」（Maximilians)でバイエルン料理を食べる。

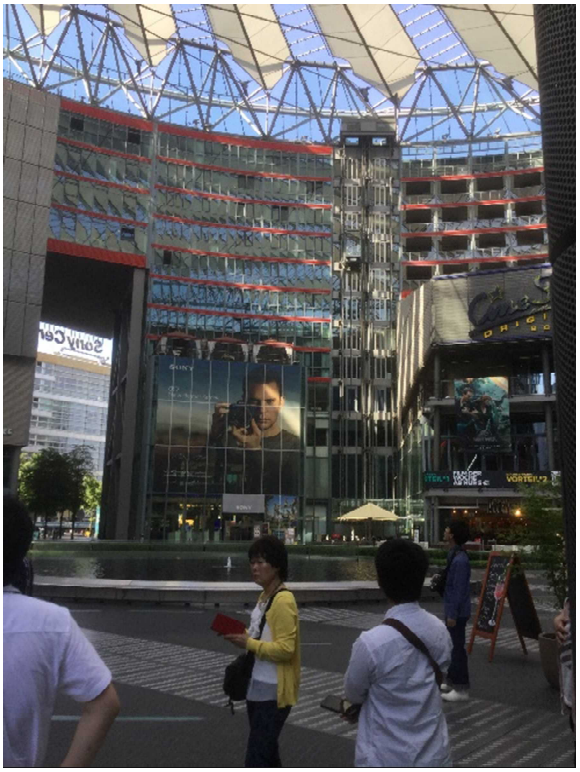
食後、全員にシャンパンが配られバースデーケーキが登場した。今日、5 月 22 日は私と井上君の誕生日。そのお祝いで JTB が用意してくれたもの。食事が終わり満腹であったが、一口食べるとメチャクチャ美味しかった。こんな美味しいケーキは初めて。

ツァーコンダクターの安達さんが、先週パリの有名なケーキ店で注文し、それを私たちのために届けてもらったようである。JTB のサービスに感動させられた。

二人の誕生日を祝ってワインで乾杯。

5.【3 日目】ベルリン市内観光

ソニーセンター



ソニーセンターは、住宅を含む商業施設であり、ポツダム広場の中心にある。

施設には、ソニー・ヨーロッパの本社をはじめ、ソニースタイルストア、オフィスビル、高級アパート、フィルムハウス、ドイツ・メディアテーク、シネマ・コンプレックスなどが入っている。

ベルリンの壁崩壊後のポツダム広場の再開発の目玉として建設され、現代ベルリンの象徴の一つである。

ベルリンの壁

第二次世界大戦後、敗戦国ドイツは連合軍（米・英・仏・ソ連）によって西ドイツと東ドイツとに分断された。東ドイツはソ連が占領したが、東ドイツの中にあった首都ベルリンはさらに東西に分割され、西ベルリンを米・英・仏が、東ベルリンをソ連が統治することになった。つまり、東ドイツ国内にありながら西ベルリンだけは西ドイツに属するという、陸の孤島のような状態になった。

資本主義の西ドイツの経済は成長し、市民の生活は豊かになったが、ソ連社会主義の東ドイツは経済が悪化し、東西ドイツの経済格差は徐々に広がっていった。

当初は、東西ベルリンの行き来は自由だったので、自由で良い暮らしを求めて、1949～61 年の間に約 250 万人の東ドイツ市民が西ドイツの西ベルリンに脱出した。特に熟練労働者、専門職、知識人の脱出が増え続け、東ドイツ経済の命運を脅かす事態となった。

そこで東ドイツは、東ベルリン市民の西ベルリンへの通行を遮断する有刺鉄線柵を構築した。柵の構築は 1961 年 8 月 12～13 日の夜間に開始された。有刺鉄線柵はその後、監視塔と銃座、地雷に守られた有刺鉄線付きのコンクリート壁（高さ最大 5 メートル）に変った。80 年代までに障壁は 45 キロに及び市を分断、その後さらに 120 キロ延びて西ベルリンを囲い込み、東ドイツから完全に隔離した。こうしてベルリンの壁は、冷戦によるドイツおよび欧州の東西分断を象徴する存在となった。この間、約 5000 人の東ドイツ市民が、さまざまな手段で壁を越え西ベルリンに逃げ延びた。一方、壁を越えようとして東ドイツ当局に捕えられた市民も 5000 人に及び、ほかに 191 人が壁越えの最中に射殺された。1989 年 10 月、東欧を巻込んだ民主化の波の中、東ドイツの共産主義政権は崩壊。11 月 9 日、東ドイツ政府は西ドイツ（西ベルリンを含む）との国境を開放、ベルリンの壁も打ちこわされて通路ができ東ドイツ市民は西側と自由に往来できるようになった。

西ベルリンの周囲に作られたベルリンの壁

東西ベルリンの境界線上に置かれていた国境検問所「チェックポイント・チャーリー」。観光客が衣装を着て記念写真を撮れるようになっている。

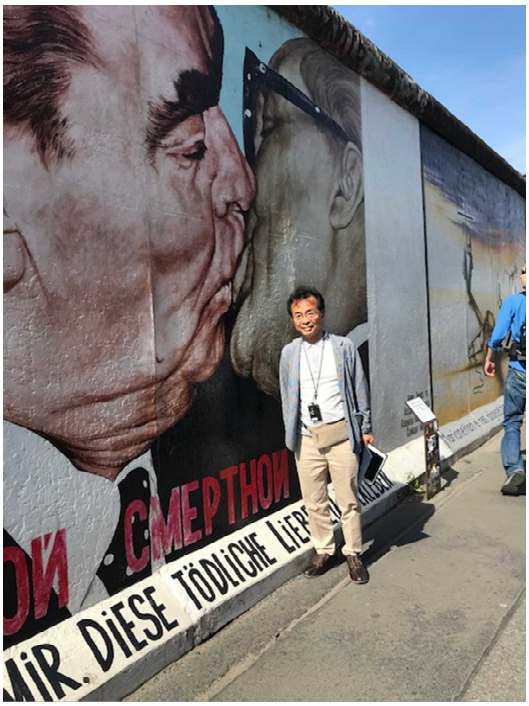
1963 年 6 月 26 日、冷戦の真っただ中で共産主義国に囲まれた西ベルリンにおいて、ケネディ大統領が『ベルリン演説』という演説を行った。

ケネディを歓迎するベルリン市民は沿道を埋め尽くした。その数は 200 万とも言われた。

その時の様子を示す写真が、チェックポイント・チャーリーの脇に展示されていた。

ベルリンのミューレン通りにベルリンの壁が 1.3km にわたって残され、オープンギャラリー「イーストサイドギャラリー」として開放されている。

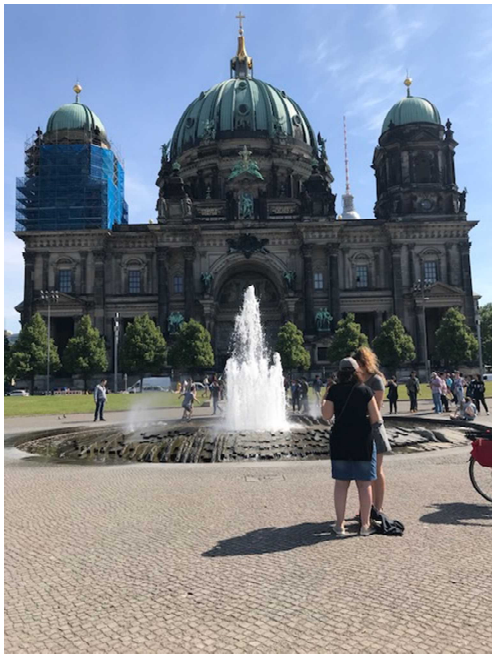
ここには、21 カ国 118 名のアーティストがアート作品を描いており、観光名所の一つになっている。



数あるアートの中でも特に有名なのが二人の男が熱い接吻を交わす「独裁者のキス」と呼ばれる作品。

旧ソ連のブレジネフ書記長と旧東ドイツのホーネッカー書記長のキスシーン。

ペルガモン博物館

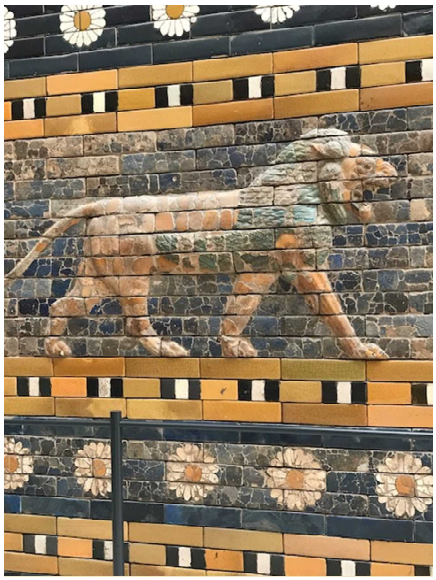


ホーエンツォレルン王家の記念教会である「ベルリン大聖堂」。ベルガモン博物館へ行く途中に外観を眺めただけ。

ペルガモン博物館。ここには、ギリシャ、ローマ、中近東のヘレニズム美術品、イスラム美術品などが展示されている。

ミレトスの門。ミレトスはトルコにあった町。

ペルガモン博物館を代表する作品「イシュタール門」



行列どおりの「ライオン」

レストラン「Neumann`s」

昼食はドイツ料理の店

食事にビールは欠かせない。

メインディッシュはホワイトアスパラとマスとジャガイモ。

クラインガルテン

ベルリンテーゲル空港に向かう途中、庭付きの小さな家がたくさんあった。クラインガルテンと呼ばれる「滞在型市民農園」である。ドイツの利用者は 50 万人を超えている。利用者一人当りの平均面積は 100 坪。貸借期間は 30 年。野菜や果樹が育てられ、ラウベと呼ばれる小さな小屋が併設されている。老後の生き甲斐や余暇の楽しみだけでなく、都市部での緑地保全や子供たちの自然教育の場として大きな役割を果たしている。

ホーフブロイハウス

ミュンヘンに着くと、ホテルにチェックインする前に、ホーフブロイハウスで食事。ここは、国立ホーフブロイハウス醸造会社が直営する世界一有名なビアホール。1、300 人を収容できる広さがある。

1 リットルの大ジョッキ。見ただけで飲む気が失せた。

名物の子豚のロースト

6.【4 日目】フュッセンとミュンヘン観光

ヴィース教会(世界文化遺産)

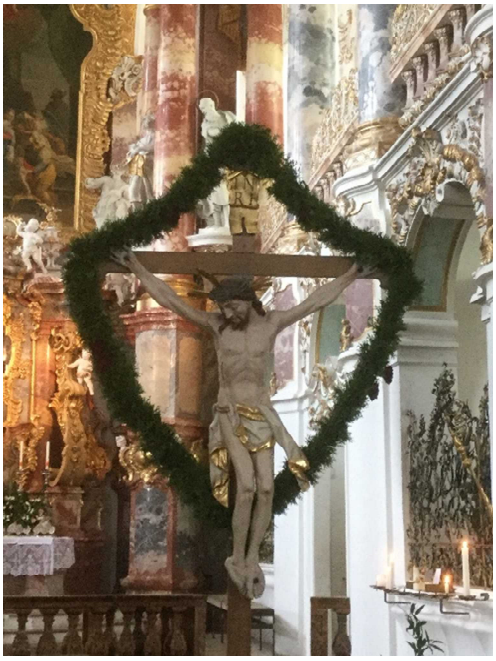
ミュンヘンのホテル REGENT を 7 時 45 分に出発して、専用バスでシュタインガーデンのヴィース教会へ行く。

祭壇

近郊のシュタインガーデンの修道院に放置されていた「鞭打たれる姿のキリスト像」が 1738 年に涙を流すという奇跡が起きたことら、この像のために建設された教会。祭壇に奇跡のキリスト像が安置されている。

教会の外観は質素なデザインであるが、内部はヨーロッパで最も美しいと言われるロココ様式。の教会の一つ。

天井のフレスコ画



キリスト

台湾のグループが自転車で観光をしていた。

ノイシュバンシュタイン城

ノイシュバンシュタイン城は、ディズニーラン19世紀に建築された。一見すると伝統的な石造りに見えるが、鉄骨組みのコンクリートおよびモルタル造。ルートヴィヒ2世の趣味のためだけに建設されたもの。文化的価値は高くないため、世界文化遺産に指定されていない。

ビューポイントのマリエン橋から眺めたノイシュバンシュタイン城。ここは2度目。12年前に来ている。

マリエン橋は記念写真のスポット。

ノイシュバンシュタイン城は観光客で溢れていた。5分間隔で60人のグループ毎に館内へ入れ、音声案内で説明をしてゆく仕組みにし、回転率を高めている。建物内は撮影禁止になっていた。

城の中から眺めた外の景色。下の駐車場のそばには土産物店がある。私たちが入った土産物屋は、店員が全員日本人であった。日本からもってきたスーツケースのチャックが壊れていたので新しいのを購入した。

日本から来ていた観光客が冨永さんに、「あなたたちはどのようなグループですか」と尋ねたそうである。日本から来るのは旅行会社が集めたツ

アー客で、夫婦のカップルや家族連れ、数名の仲良しグループがほとんどである。私たちのようなグループは珍しい。

冨永さんが、「会社の社員旅行です」と答えると、「良い会社ですね」と言われたそうである。その話を冨永さんから聞き、私も嬉しくなった。

BMW ヴェルト（BMW Welt）

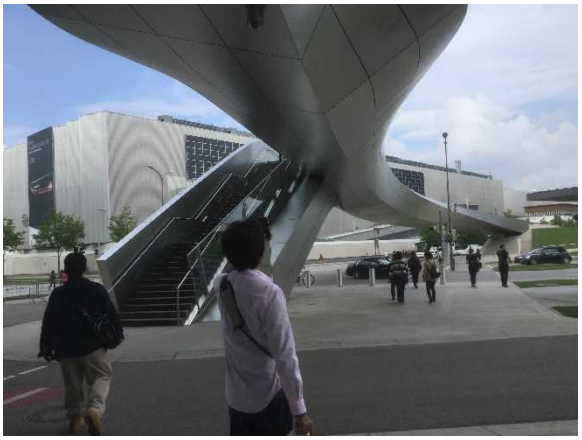
ドイツ語の「ヴェルト Welt」は、「ワールド World」という意味。ＢＭＷのクラシックカーが展示されている「ＢＭＷ博物館」と、ＢＭＷのショールームである「ＢＭＷヴェルト」がある。

ミュンヘンのオリンピアパルクに隣接する BMW 本社敷地内にある自動車博物館。

BMW の歴史や歴代の名車などが展示されている。総工費は 700 億円。

自動車博物館に展示されている名車

自動車博物館に展示されている名車



博物館とショールームを結ぶ斬新なデザインの横断歩道橋。

ミュンヘン新市庁舎のカップル

ミュンヘン新市庁舎は、1867～1909 年に建てられたネオ・ゴシック様式の建物。ドイツ最大の仕掛け時計がある。

ミュンヘン市庁舎の展望台から眺めたミュンヘン市内。ミュンヘンは第二次世界大戦で焼き尽くされたが、戦前の街を復元した。ドイツ人のアイデンティティの強さを感じた。

ヴィクトアーリエンマーケット

市庁舎があるマリエン広場から南に少し行った所に、野菜や果 物、花、チーズ、ワイン、鮮魚などの店がたくさん並んだ市場、ヴィクトアーリエンマーケットがある。マーケットの中には、ビアガーデンもあり、多くの市民がジョッキでビールを飲んでいた。さすがは世界一のビールの街。

市場の中央には、マイバウムが立てられていた。マイバウムとは「五月の樹」の意味。ドイツでは春の訪れを祝い、５月になると町や村の広場に一本の高い柱を立てる風習がある。ここでは飾り付けされたマイバウムが一年中立てられている。

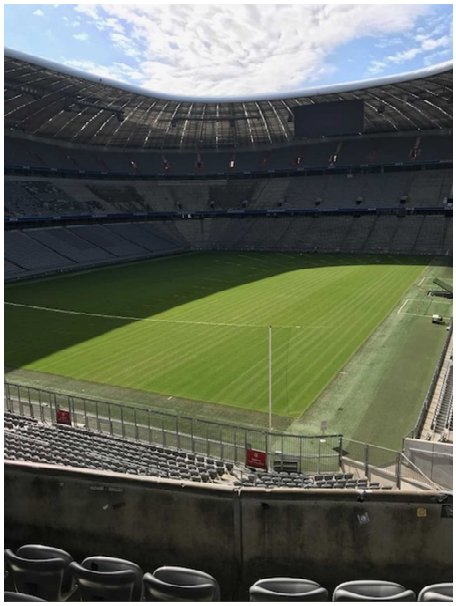
ここには 12 年前に来ているが、広場や街の様子はほとんど変わっていない。中国や東南アジアの国々が猛スピードで変化しているのと対照的である。

レストラン「ラーツケラーRatskeller」

夕食は、ミュンヘン新市庁舎の地下にあるレストラン「ラーツケラーRatskeller」。
以前ウイーンに行ったとき、市庁舎の地下に 100 年の歴史を誇るレストランがあり、名物のカツレツを食べたことを思い出した。

7.【5 日目】ミュンヘン市内観光

アリアンツ・アリーナ



FC バイエルンミュンヘンのホームスタジアム「アリアンツ・アリーナ」。ドイツで最新の設備を誇り 75、000 人を収容できる。

ピッチには自然芝を張り、積雪を溶かすための暖房装置が備えられている。

現地ガイドとアリアンツ・アリーナの説明をしてくれたスタッフ。

観客席

控え室の選手が左手の出口より出てくる

この階段を降りて上がればピッチに出る

記者席 200 を備えたプレス室、選手の控え室、選手がピッチに飛び出す通路、選手がインタビューを受ける部屋なども見学した。

このスタジアムは、FC バイエルン・ミュンヘンチームが、500 億円の費用を投じて建設したもの。

わが社の社員 32 名が FC バイエルンチームとジャパンナショナルチームに分かれて、バイエルンが入場するときの音楽を流しながらピッチに飛び出す体験をさせていただいた。

ツアーで日本人観光客がここを訪れることは、時間的制約からまずない。会社の慰安旅行だったから企画できた。施設見物の後、土産用に FC バイエルンのグッズを買った社員は多かった。

わが家も孫たちに FC バイエルンの選手が着用しているデザインの T シャツを買った。

ヴェルテルスバッハ王室の宮殿レジデンツ

最後の観光地は、ヴェルテルスバッハ王室の宮殿「ミュンヘン・レジデンツ」。

豪華絢爛な装飾や展示品、天井画、絵画には驚嘆させられた。

じっくり見ようとすれば半日はかかるが、アリアンツ・アリーナの見学に時間を使いすぎ、ここでの見学は 30 分に短縮せざるを得なかった。

8. あとがき

旅行期間中天候に恵まれた。ベルリンはずっと快晴であった。ミュンヘンは旅行期間中ずっと雨の予報であったが、雨が降ったのはバスで移動中だけであり、傘をさす必要は一度もなかった。

先発隊のイタリア班、フランス班に続き、ドイツ班もトラブルなく予定通り全員が無事に帰国できホットした。

高知龍馬空港に着くと、怜佳と創士が迎えに来てくれていた。　　(2018.8.29 記)

高知龍馬空港

ドイツ班のメンバー